

平成20年度第3回日本臨床検査医学会
臨床検査専門医審議会 だより

日時：平成20年8月23日(土)10:30～11:30
場所：日本臨床検査医学会 事務所
出席者：宮澤幸久委員長，高橋伯夫，松野一彦，
高木 康，村田 満，水口國雄 各委員
佐藤尚武 専門医会代表(7名)
欠席者：土屋達行，渡邊 卓(2名)

委員長挨拶

宮澤幸久委員長より開会の宣言があり議事が進行された。

報告事項

1. 研修施設・指導者認定委員会報告

(松野一彦 委員長)

2008年7月1日付として，新規申請1施設について準認定病院2年と認定，再認定申請6施設あり，5施設が認定病院2年，1施設が認定病院5年と認定，また，保留後の申請が3施設あり，1施設が準認定病院2年，2施設が認定病院2年として認定された。

申請施設の中に，認定研修施設規定2-5の本学会への研究成果報告がなされていない数施設についての認定について，検討され，今回は認定して，次回申請時には，認定には学会報告を条件とすることとした。そして，申請書には，本会での発表のみを記載していただくこととなった。

また，精度管理検討会が行われていない施設が見られたので，次回から申請書に，提出事項に加えることになった。

2. 平成20年度臨床検査専門医受験者の受験資格審査結果について(土屋達行 委員欠席のため，高木康委員)

本年度の臨床検査専門医試験新規受験希望者23名について，受験・更新資格審査委員会で受験資格を審査した結果，全員，有資格者として判定されたことが報告された。なお，その他，再々受験者が2名，再受験者が6名いることも報告された。

3. 臨床検査管理医セミナーの開催予定について

(高橋伯夫 先生)

第1回管理医セミナーは，20年5月10日(土)10:30～15:30，23名の受講者の参加があり，学会事務所に於いて行った。

第2回管理医セミナーは，名古屋国際会議場で，参加希望者に調査して11月29日(土)に開催可能であれば，11月30日から日程を変更して開催することとなった。

4. その他

特になし。

審議事項

1. 第25回臨床検査専門医認定試験結果について

(高木 康 委員長)

第25回臨床検査専門医認定試験は，平成20年8月2日(土)，3日(日)に実施。受験者31名(再受験者6名，再々受験者2名)。受験者の判定表が提示され，高木委員長より説明があり，合格者29名，再受験者1名，再々受験者1名で承認された。

2. その他

特になし。

次回審議会日程(第4回：11月8日(土)，第5回：12月20日(土))

日本臨床検査医学会

平成20年度第3回理事会 だより

日時：平成20年8月23日(土)12:00～16:00
場所：日本臨床検査医学会 事務所
出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，
玉井誠一会計理事，米山彰子庶務理事，
矢富 裕，諏訪部章，福武勝幸，松野一彦，
登 勉，石 和久，村田 満，宮地勇人，
溝上雅史，三家登喜夫，小出典男 各理事
戸谷誠之，中原一彦 各監事 (18名)
酒井富雄顧問 一時陪席
欠席者：高木 康総務理事，熊谷俊一，荻原順一，
犀川哲典 各理事(4名)

日本臨床検査医学会ニュース

開会に先立ち、名誉会員 竹内 純 先生(80 歳 名古屋大 名誉教授)(2008/3/9 日逝去)の逝去を悼み黙禱し、宮澤幸久理事長の挨拶があった。その後、矢富裕理事、村田満理事を議事録署名人に定め、議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

北海道支部報告(松野一彦 支部長)

1. 支部総会の予定

第 42 回支部総会

期 日：平成 20 年 9 月 20 日(土)

場 所：札幌医科大学臨床教育研究棟 2 階
臨床第 1 講義室

総会長：渡邊直樹 教授

(札幌医科大学医学部臨床検査医学講座)

内 容：評議員会、総会

一般演題：23 題

特別講演：サイアザイド感受性 Na-Cl 共輸送
体(SLC12A3)遺伝子解析の臨床的意義

弘前大学大学院医学研究科臨床検査医学講座

保嶋 実 教授

2. 支部人事変更について

支部長 松野一彦(北海道大学病院検査・輸血部)

(正式には支部評議員会、支部総会にての承認後)

東北支部報告(荏原順一 支部長欠席の為、

諏訪部章 理事)

1. 支部総会の予定

第 40 回支部総会

日 時：平成 20 年 7 月 26 日(土)

場 所：岩手医科大学 60 周年記念館

総会長：諏訪部章

(岩手医科大学医学部臨床検査医学 教授)

2. 支部例会の予定

第 32 回支部例会

日 時：平成 20 年 12 月 13 日(土)

場 所：秋田市拠点センターALVE(予定)

例会長：荏原 順一

(秋田大学医学部臨床検査医学 教授)

内 容：未定

事務局(連絡先)：秋田大学医学部臨床検査医学内

電話 018-884-6201(直通)FAX：018-836-2624

3. 支部人事変更について

山口 一郎先生の評議員の辞退。

金光 敬二先生を評議員の資格を確認の上、推薦する。

関東・甲信越支部報告(宮地勇人 支部長)

1. 支部総会の予定

第 20 回支部総会

日 時：平成 20 年 10 月 4 日(土)

場 所：慶応義塾大学病院新棟 11 階大会議室

総会長：村田 満(慶応義塾大学 教授)

内 容：

シンポジウム 1 パニック値への対応：
施設での取り組み

(1)血液学検査

帝京大学病院中央検査部 島津千里

(2)化学検査

東京大学病院検査部 大久保滋夫

(3)検査相談室での取り組み

慶応義塾大学医学部臨床検査医学 菊池春人

シンポジウム 2 検体の二次利用：

現状、あるべき姿

(1) 東海大学臨床検査医学 松下弘道

(2) 群馬大学臨床検査医学 村上正己

(3) 虎ノ門病院臨床検体検査部 米山彰子

特別講演 遺伝子医学の展望

慶応義塾大学医学部分子生物学 塩見春彦

事務局(連絡先)：慶応義塾大学 村田満教授

2. 支部例会の予定

第 66 回支部例会

日 時：平成 21 年 5 月(土)

場 所：都立駒込病院講堂

例会長：大林民典(都立駒込病院臨床検査科)

事務局(連絡先)：

都立駒込病院臨床検査科 大林民典先生

3. その他の報告事項

日本臨床検査医学会関東・甲信越支部 規約 細則
プログラム委員会に関する細則(案)

1. 目的：プログラム委員会は支部総会・例会の
プログラムを充実させ、学会員間の情報交換と連携
を図り、支部活動を活性化させるために設置する。
総会・例会の内容・企画など必要事項を討議する。

2. 委員：委員会は総会長または例会長、医師お

よび検査技師(血液, 臨床化学, 臨床微生物, 免疫血清, 遺伝子, 病理, 生理の各部門)の幹事にて構成する。委員の任期は2年とし, 再任を妨げない。委員は幹事会にて審議・決定の上, 支部長が委嘱する。オブザーバーとして, 支部長, 副支部長が参加する。

3. 会議: 会議は総会長または例会長が, 総会または例会開催前に, また必要時に召集する。会議開催はメール会議を中心として, 必要に応じて学会事務局会議室を利用する。経費は例会・総会経費から支出する。会議における討議, 決議事項は幹事会に報告し承認を受ける。

平成20年5月17日施行

東海・北陸支部報告(溝上雅史 支部長)

1. 支部総会の予定

第48回支部総会

日 時: 平成21年3月8日

場 所: 岐阜市

総会長: 清島 満 教授(岐阜大学)

2. 支部例会の予定

第28回支部例会

日 時: 平成21年8月予定

場 所: 福井市

例会長: 木藤知佳志 先生(福井県立病院)

近畿支部報告(三家登喜夫 支部長)

1. 支部総会の予定

第52回支部総会

日 時: 平成20年10月18日, 19日

場 所: 兵庫医療大学(神戸市)

総会長: 小柴賢洋(兵庫医科大学臨床検査医学)

内 容: 近畿医学検査学会と同時開催

2. 支部例会の予定

第54回支部例会

日 時: 平成21年6月頃

場 所: 未定

例会長: 上裕俊法(近畿大学医学部付属病院臨床検査医学)

中国・四国支部報告(小出典男 支部長)

1. 支部総会の予定

第54回日本臨床検査医学会中国・四国支部総会

(会長 小出 典男)

第149回日本臨床化学会中国支部例会・総会

(会長 通山 薫)

第19回日本臨床化学会四国支部例会・総会 合同地方会(会長 土井 俊夫)

第5回合同地方会

日 時: 平成21年2月7日(土)~2月8日(日)

場 所: 岡山大学医学部臨床第二講義室

(〒700-8558 岡山市鹿田町二丁目5番1号)

総会長: 岡崎俊朗(鳥取大学医学部臨床検査医学講座 教授)

内 容:

特別講演: 平成21年2月7日(土)

1. 臨床検査技師の未来(仮題)

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

戸塚 実

2. 今後の検査部の 方向性(仮題)

東京大学大学院医学系研究科臨床病態検査医学

矢富 裕

シンポジウム: 平成21年2月8日(日)

テーマ『遺伝子検査の現状と未来』(仮題)

1. 遺伝子検査の考え方(仮題)

大阪大学大学院医学系研究科臨床検査診断学

高野 徹

2. 血液疾患と遺伝子検査(仮題)

鳥取大学医学部附属病院検査部 松本久幸

3. 遺伝子検査の現状(仮題)

山口大学医学部附属病院検査部 岡山直子

4. 感染症と遺伝子検査(仮題)

鳥取大学医学部感染制御学 堀井俊伸

5. 肺がんと遺伝子検査(仮題)

京都大学 三尾直士

一般演題: 平成21年2月7日(土), 8日(日)

事務局: 鳥取大学医学部附属病院検査部

事務局担当: 谷本綾子

TEL:0859-38-6822, FAX:0859-38-6820,

E-mail: tanimoto-ttr@umin.ac.jp

九州支部報告(犀川哲典 支部長欠席のため,

米山彰子 理事)

1. 支部総会の予定

平成21年度の臨床検査医学会と臨床化学会の九州ブロックの会は合同開催となり, 以下の要領で開

催予定です。

開催予定日：2009年2月14日(土)

開催場所：福岡市中央区天神1-4-2

エルガーラホール

<http://www.elgalahall.co.jp/>

会 長：

臨床検査医学会 琉球大学 山根誠久

臨床化学会 佐賀大学 出原賢治

2. 委員会報告

A. 学術推進委員会(矢富 裕 担当理事, 委員長)

1. 第1回(H17・18)学術推進プロジェクト研究報告書の点検・確認

2. 第1回(H17・18)学術推進プロジェクト研究についての総括

- ・意義深く、今後も継続すべきであることが確認された。
 - ・学会主導で研究テーマを選定し、実施したことに意義と目的の融合が見られた。もっと、幅広い領域から研究テーマを採択したい。
 - ・若手の研究をサポートできるようなシステムにすべき。
 - ・会計報告は、より厳密にさせていただく必要がある。
 - ・第1回学術推進プロジェクト研究の成果として、オーダーメイド医療を取り上げ、パネルディスカッションを行うことを学術集会長に提案する。
3. 第2回(H19・20)学術推進プロジェクト研究について
4. 第3回(H21・22)学術推進プロジェクト研究の募集について
4. の募集要項が提示され応募資格についてご意見があり、再度、委員会で検討後に持ち回り理事会で確認することとなった。

B. 編集委員会(矢富 裕 委員長)

1. 学術集会シンポジウムの掲載論文への指摘について

本誌に掲載された昨年の学術集会のシンポジウムの論文に対して、過去に他誌に掲載された論文に内容が重複しているという指摘があった。指摘いただいた内容を吟味した結果、「文章に重なりが多いという指摘は間違いありませんが、時期的に後で掲載された本誌の論文では、〇〇〇誌とは異なる図表

が用いられ、文献もかなり充実されています。臨床病理誌の論文は、学術集会でのシンポジウムの内容をまとめたものであり、またご指摘のありました両論文とも原著でないことを考慮いたしますと、同一著者の表現内容に重複がありますが、許容範囲内と当編集委員会は判断します。」という結論を、ご指摘いただいた方および著者へお知らせした。なお、本件に対して、指摘された方および著者よりのご返事はない。

2. 優秀論文賞の選考について

検討の結果、以下の3論文を優秀論文賞候補として、学会賞委員会に推薦した。

なお、優秀論文賞として3論文が選ばれたことが報告された。

①Toshiaki HIKINO. In Situ Hybridization with Novel Biotinyl-Tyramide: Fundamental Studies and its Utility of the Detection of Human Papilloma Virus in Tissue Sections. 55:922-929

②宮城 博幸. QTRAP LC/MS/MS による多剤同時スクリーニング分析の試み. 55:309-318

③渡嘉敷 良乃. 酵母真菌に対する高圧滅菌および消毒薬処理効果の Live/Dead 染色を用いたフローサイトメトリ法による解析. 55:230-236

3. Corresponding Author について

現状では、添付用紙に署名、捺印をしていただいている。Corresponding Author を設けることで、少しでも責任著者が点検を行うようになればいいのではないか。

しかし、Corresponding Author を設けることにより、連絡著者が責任をもって点検が行われるとも限らないのではという意見もあった。

投稿添付用紙に

「3. 論文の表紙に Corresponding Author (連絡著者)の連絡先を記載すること。」

の項を設け、投稿規定にもその旨明記する。

新投稿添付用紙で投稿された論文について、論文掲載時に Corresponding Author を明記する。

4. 投稿規定の変更について

変更箇所

①表記を1段組とする。

②Corresponding Author (連絡著者)を明記する。

③区分「短報」は意義が不明であり、不必要。

④原稿枚数の表示を文字数、ワード数表示に変更す

る。

⑤区分「原著」についての規定枚数「5頁」を「6頁」に変更する。

⑥執筆要領で400字詰めを廃止する。

⑦文献の著者名の記載を3名までとし、4名以上の場合にその他とする。

5. トピックスの件

ご提案いただいた中で以下の企画を進める。

北島委員「ISO15189」：シリーズとしてISO15189に関わるテーマで、取得施設の経験の一端をご紹介いただく。

細萱委員「標準物質の開発と活用」：JCCLS学術集会時の内容をモディファイする。

狩野委員「腸内細菌叢(腸内環境)と疾患関連性およびその調節について」

6. 学術推進化プロジェクト

最終成果については、原著または総説論文として、投稿していただくことになっている。原著として投稿された場合は、編集委員による通常の審査を行う。また、総説の場合は、プロジェクトの担当委員による審査を行う。

研究成果として他誌にて報告されたプロジェクトについては、臨床病理誌に総説を書いていただくのが望ましい。新たな募集要項には、これを応募要件として明記していただくよう、学術推進化委員会に要望する。

7. 各大学図書館で行われている、研究者による論文や学会発表資料等の電子的保管かつ公開するアーカイブ化事業、アーカイブの保管と公開のシステム(機関リポジトリ)から掲載論文の掲載の可否について問い合わせがあった。

意見として、「著作権に関することであるので、慎重にすべきではないか」「最終論文形態でないものではあれば、よろしいのではないか」「J stageについては、お断りしているの、こちらもお断りすべきでは」

本件、理事会でご検討いただくこととする。

検討の上、問題なしとなった。

8. 退任、新任講演について

各支部で把握されている退任・新任の教授、技師長、部長の最新情報を問い合わせたが思いの外、情報はなかった。なお、原稿依頼は学会評議員に行う。現在までの依頼状況

退任

富永 真琴 教授 ご執筆中

勝山 努 教授 ご執筆中

新任

メ谷 直人 教授 入手

西郷 勝康 教授 入手

三井田 孝 教授 ご執筆中

9. 投稿審査について

審査については、教育的な立場で審査をいただき、出来るだけ掲載する方向で進めていただきたい。審査書に「区分」、「倫理面」のチェック欄を設けた。

「倫理面」のチェックについて：明らかにIRBを通さなければならぬ案件をチェックしていただきたい。

「学会倫理委員会」による答申が秋に行われる予定であり、その答申をもとに再度検討したい。

10. MEDLINEでの雑誌の表記

表記名「RinshoByori」について、変更が可能かどうか問い合わせたい。

C. 教育委員会(諏訪部 章 担当理事)

1. 卒後研修カリキュラムに沿った卒後研修手帳の作成を行っている。
2. 卒後研修指導者ガイドラインの作成を計画中である。

D. 臨床検査点数委員会(米山彰子 委員長)

平成20年度 第1回 日本臨床検査医学会臨床検査点数委員会

第1回 日本臨床検査専門医会保険点数委員会

平成20年4月22日(火)16時30分~18時30分

日本臨床検査医学会

出席：宮澤幸久担当理事、米山彰子委員長、
稲山嘉明、狩野有作、佐藤尚武、東條尚子、
中島一朗、本田孝行 各委員、
渡辺清明委員(アドバイザー)

欠席：木村聡、松本哲哉、吉田博 各委員

日本臨床検査専門医会

出席：渡辺清明委員長、狩野有作、佐藤尚武、
メ谷直人、東條尚子、三宅紀子、
米山彰子 各委員

欠席：松尾収二、宮地勇人 各委員

日本臨床検査医学会ニュース

内容

1. 新年度委員紹介および委員会運営について

検査医学会および専門医会の新年度委員の紹介が行われた。

両委員会が協調して活動することとし、委員会も合同で行う。

診療報酬についての意見を主張するにあたって、両会から委員を出している臨床検査振興協議会とも協調していく。

2. 「医療ニーズの高い医療機器等の早期導入に関する検討会」の検討対象とすべき医療ニーズの高い医療機器等に関する要望調査について

日本医学会および内保連を通じて依頼のあった標記調査について、臨床検査医学会評議員にアンケートを行い提案のあった「HIT 抗体測定試薬」を提出することにした。

提案者の了解を得た上で、専門医会からも同様に提出する。

本検討会の対象は予後不良の重篤な疾患であることから、該当しないものについては今後「高度医療評価制度」の利用も検討することが提案された。

3. 平成 20 年度診療報酬改定について

改定の主なポイントが以下のように確認された。

(1) 外来迅速検体検査加算の見直し

対象項目が限定されたこと、1 項目あたりの点数が 5 倍になったことにより、大幅な増収が期待される。

(2) 検体検査管理加算

従来の管理加算ⅡはⅢとなった。

あらたな管理加算Ⅱは、「臨床検査を担当する常勤の医師が 1 名以上いること。なお、臨床検査を担当する医師は検体検査の判断の補助を行うとともに、検体検査全般の管理・運営に携わるものをいい、院内検査に用いる検査機器及び試薬の管理についても携わるものであること」とされ、FMS や臨床兼任の医師でも算定できる。

・管理加算Ⅲの「臨床検査を専ら担当する」は従来のⅡと同様 8 割を臨床検査に従事すればよいとされているが、大阪府など一部ではもっと厳しくとらえる担当者もいるようで、このような例では、善処していただくよう厚労省担当官に学会からお願いをしてみる。

・あらたに施設基準としての緊急検査に入った微生物学的検査については実質的にグラム染色をさす。

常時実施可能な検査技師が当直する必要はなく、「できる体制」であればよいということで、医師が行う、あるいはオンコール体制をとるなどでも算定可能とのことである。

(3) 外来診療料包括項目の見直し

モノクローナル抗体による造血器悪性細胞腫瘍検査などが包括外になった。

4. 「平成 20 年度診療報酬改定の実績と評価」記載内容について

内保連から提出を求められている標記文書につき回答内容を審議し以下のようにした。

・平成 20 年度診療報酬改定の実績

検査医学会：未記載 1/3(クロスミキシング試験)

既記載 2/5(外来迅速検体検査加算、診療報酬廃止)

専門医会：既記載 1/2(モノクローナル抗体による造血器悪性細胞腫瘍検査)

・平成 20 年度診療報酬改定への評価

採択状況：「まあ満足」

厚生労働省の対応：適切。

学会としての希望順位を付けて提出したい

・内保連の活動について

次期改定に関して：生理検査、鏡検査の引き上げを要望

その他：医療費の配分・運用について世論を喚起するよう国民へのアピールをめざす

活動をしていただきたい

5. その他

次期改定を含め、今後検討を要する項目が議論され以下が挙げられた。

・生理検査についても力を入れていく

・POCT 項目をどう評価してもらおうか検討

・郵送検診についての管理がなされていないので、今後の課題である。

E. 精度管理委員会(宮地勇人 委員長)

CAP サーベイ事務局ニュースレター(仮称)の主な記事内容、見本が提示された。発行について問題はないが、発行方法に問題がないかどうか会計顧問に問い合わせた上で、実際の記事内容を再度、示して頂くこととなった。

F. 遺伝子委員会(村田 満 担当理事,

宮地勇人 委員長)

平成 20 年度 第 1 回日本臨床検査医学会

遺伝子委員会 議事録

出席者：(順不同, 敬称略)宮澤幸久(理事長),
村田 満(担当理事), 宮地勇人(委員長), 登 勉,
野村文夫, 真里谷靖, 前川真人, 横田浩充,
佐々木政人, 堤 正好

【欠席】小杉眞司, 船渡忠男, 南木 融

日 時：平成 20 年 7 月 2 日(水)16 時～18 時

場 所：日本臨床検査医学会 事務所

議 題：

1. 遺伝子委員会の設置について

・宮澤理事長から、遺伝子委員会は、遺伝子検査に関する様々な動向を鑑み、本学会と関連学会の遺伝子検査関連活動が連携していくことを目的として設置した旨、説明がなされた。

・本委員会の担う役割について確認がなされた。他の学術団体・学会の遺伝子検査関連の活動において、対応しきれない事項が明らかとなりつつある。本委員会の活動は、臨床検査の専門学会として対応すべき課題を明確にし、学会内外の連携を図ることを目的とすることが確認された。

・遺伝子検査を取り巻く国内外の状況について、日本臨床検査標準協議会(JCCLS)遺伝子関連検査標準化専門委員会からの平成 19 年経済産業省委託事業：遺伝子関連検査標準化調査研究の成果報告書に基づき宮地委員長から説明がなされた。

・今年度の保険診療報酬改定において、進行性筋ジストロフィー検査に続き、新たに 13 項目の遺伝病的検査が保険収載されたことについて議論がなされた。保険点数が低い(2,000 点)ため、検査実施や精度確保に支障があること(登委員, 堤委員), 標準化された検査法がないこと, さらに遺伝子の特許に関しては実施者の責任で対応すること等(堤委員), 頻度少ない限定した疾患(治療法あり)のみであり, より頻度多い遺伝病的検査の保険収載が望まれること(野村委員), など課題提起がなされた。これら課題は保険点数委員会等を通して厚生労働省に提言していくこととした。

2. OECD 分子遺伝学的検査における質保証ガイドラインへの対応について

JCCLS では、OECD ガイドラインの 2007 年発行を契機として、日本版ベストプラクティス・ガイドラインを策定中である旨、堤委員から報告がなされ

た。OECD ガイドラインの骨子として、検査の質保証のため、検査機関に対する認定システム、技能試験、検査結果の報告、検査機関の職員教育が挙げられている。日本では、これらの枠組みが整備されていないため、日本版ベストプラクティス・ガイドラインを策定しても実効性ないものとなる懸念がある。

・当委員会では、日本版ベストプラクティス・ガイドライン策定上必要な枠組み整備について、JCCLS その他関連学術団体と連携のもと、臨床検査の専門学会の立場から検討することとした。(宮地委員長)

・職員教育については、既に日本臨床検査同学院にて遺伝子分析科学認定士制度を立ち上げ、6 月に 2 回目の認定試験を実施した。検査機関の認定システムとして、CAP や ISO がある。ISO では遺伝子の技能試験はなく、遺伝子検査の質評価がなされない(横田委員)。

ISO/TC212 の年次総会が 6 月にカナダ国バンクーバー市にて開催され、ISO15189 において、遺伝子検査関連の項目の取扱い(我が国の提案)について議論がなされたが、文書確定に至っていない。

技能試験は国内のものは項目が一部のみであり、遺伝子検査室の評価には十分機能していない。CAP では遺伝子の技能試験があり、遺伝子検査室の認定が可能である。一部登録衛生検査所が認定を受けている。CAP の遺伝子の技能試験は、感染症の他、悪性腫瘍や遺伝病的検査の項目を有する。しかし、CAP 認定された施設のみの利用にとどまり、保険収載項目はカバーされていない。

希少疾患の技能試験では、一部検査機関において、検査立ち上げ時に同一検体を他の検査機関で測定し互換性を確認している(野村委員)。

・技能試験についてあり方を討議し、課題抽出・整理する。

新規保険収載されたが標準化キットがない検査を院内実施した場合、遺伝子検査室または検査実施の認定(認証)の制度が必要であるとの問題提起がなされた(真里谷委員)。

3. ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針(案)について

ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針(案)策定について宮地委員長から説明がなされた。本学会は、厚生労働省「医療ニーズの高い医療機器等に関する要望調査」において PGx 検査「アンプリチップ

日本臨床検査医学会ニュース

2D62・2C19」を申請しているが、今年度中に薬事承認されるべく審査手続きが進んでいる。そのため、現場が混乱しないように具体的かつ実状に即した最低限の運用指針案を暫定的に作成した。2008年6月、抗がん剤イリノテカンによる副作用の可能性を調べるヒト遺伝子診断薬 UGT1A1 多型検査が製造販売承認を取得した。このため、運用指針案を早急に公表すべく作業を進める必要がある。本委員会から JCCLS 専門委員会に提案した際、主要学会間でコンセンサス作りを勧められている。

・運用指針(案)の文章について議論し、以下のことを追加することとした。同意取得に際しての説明文書に検査の分析妥当性、臨床的妥当性を含める(堤委員、前川委員)。カウンセリングは主治医によるもので良いが、患者希望によって遺伝カウンセリングが受けられる体制を整える旨を追加する(野村委員)。

・残検体の取扱いは、検査室での測定精度の維持・管理、検査の新規導入時の評価等に最低限の利用に限って、他の検査試料と同等に目的外使用ガイドラインで運用可能か、倫理委員会に検討を依頼する。(宮地委員長)

4. その他

・次回の委員会開催は、日本臨床検査学会学術総会時(11月27日15:00-16:00)に行う。

・学術総会時の教育セミナー(遺伝子検査領域)は、山口大学医学部の日野田裕治教授に、ファーマコゲノミクス検査について講演いただく(11月28日)

・同学院第2回(平成20年度)遺伝子分析科学認定士制度認定試験の報告

(1) 試験準備と実施

1) 実行委員会の開催

第1回 方針決定会議

08年1月26日 東京八重洲ホール5階会議室

第2回 問題検討会議

4月6日 八重洲ホール4階会議室

第3回 問題選定会議

5月10日 東京大学病院レセプションルーム

第4回 問題校正会議

6月1日 東京大学病院レセプションルーム

第5回 試験実施

6月15日 東京大学医学系教育研究棟鉄門講堂

第6回 採点判定会議

6月21日 八重洲ホール5階会議室

2) 試験問題作成

試験委員12名、実行委員12+4名

筆記問題作成委員8名

(2) 試験実施

1) 期日：6月15日(日)

(前日午後に研修会：参加人数111名)

2) 会場：東京大学医学系教育研究棟セミナー室(13階、鉄門講堂)

3) 試験科目：筆記試験、動画実技試験、手技実技試験

4) 試験人員

試験当日：試験委員・実行委員15名、

試験補助者2名

5) 受験者数120名(欠席4名) うち学生42名

(3) 受験者採点結果

1) 科目別成績

平均点数	
筆記(100点満点)	58.1
実技動画(75点満点)	57.0
実技手技(25点満点)	20.9
総得点(200点満点)	136.0

2) 判定基準と可否判定

受験者	120名
合格者	83名
不合格者	37名
合格率	69.2%(83/120)

G. 倫理委員会(松野一彦 担当理事)

1. 「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について-日本臨床検査医学会の見解-」の改定について検討する目的で以下の予定で委員会を開催いたします。

本年度学術集会の評議員会におきましてご審議いただけるよう準備を進めたいと考えております。

ご要望などありましたらよろしくお願い申し上げます。

平成20年度 第1回 倫理委員会

日時：平成20年9月30日(火)17時～

場所：日本臨床検査医学会 事務所

議題：「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について-日本臨床検査医学会の見解-」の改定について

H. ガイドライン作成委員会(高橋伯夫 担当理事)

平成20年度第1回 ガイドライン作成委員会

開催日時：平成20年5月7日(水)午後6時～8時

開催場所：日本臨床検査医学会事務局

委員：川合陽子(委員長)，
諏訪部章(副委員長)，一山智，
熊谷俊一，新保卓郎，
高橋伯夫(担当理事)，多田紀夫，
土屋達行，野村文夫，
宮澤幸久(理事長)(欠席者なし)

事務局：八木秀志，桜井公美

はじめに

(1) 理事長挨拶(宮沢幸久先生)

今年度よりガイドラインは、学会独自で発行する。ガイドラインは学会の軸となる大事な事業である。

疾患編のようなアプローチは各学会のガイドラインでも出されていて、当学会で疾患編を充実させるためのエビデンスの構築は困難であると思われる。したがって、「検体検査」の観点から、当学会の特色をだした症候編を充実させる方向で作成してはどうか。また遺伝子検査なども盛り込んでみてはどうか。

ガイドラインのあり方としては、「診断⇒検査」ではなく、「検査⇒診断」がよく、ガイドラインのボリュームを減らし、検査の特徴が出るものが理想的である。

(2) ガイドライン作成委員会 発足について(川合陽子委員長)

ガイドライン発行の経緯を簡単に説明された。

(3) 委員の自己紹介(各委員)

1. 報告事項

(1) 平成19年12月3日開催 包括医療検討委員会議事録の確認

2. 審議事項

(1) ガイドラインのあり方について

エビデンスベースは無理なので、従来どおり、コンセンサスガイドラインとして査読方式で作成する。(疾患編)理事長のコンセプトを鑑みると、現在の疾患編で検体検査になじみが薄い項目もあるため大胆に疾患編を削除するという方法もあるが、過去9年間のガイドライン作成の努力を無駄にすることになるので、疾患編はすべて見開き2ページ程度の短編にまとめ、項目毎に各学会のガイドライン名を記載することとした。

(症候編)とてもよいと評判であるため、項目を増やして、今年度も継続して掲載する。

(検査編)検査編は、本ガイドラインの特徴でもあり、今年度も内容を増やして継続掲載する。

(対象医)本ガイドラインを教育用に使用してとてもよかったという意見もあったため、学生も対象にガイドラインを作成したらどうかという提案もあったが、あえて学生用とする必要はないということになった。従来通り、「それを専門にしていない一般医(クリニック～市中病院)・研修医」を対象にすることを再確認した。一般医を対象とするので、症候編をさらに充実させるべきということとなった。

(2) 項目について

● 「検査異常値からのアプローチ」

「検査」を特色としたガイドラインにするために、「異常値」に焦点をあてた項目設定がよいのではという意見が多数あり、「検査異常値からのアプローチ」として、以下の9項目について新たに追加することが決定された。この章は、ガイドラインの最初の章として、当ガイドラインの目玉とし、類似の項目が、疾患編・症候編にある場合は、「検査異常値・・・」を優先することとした。

(順不同)

肝機能異常，ウイルス検査，心電図異常，脂質異常，糖代謝異常，腎機能異常，血算(血液一般検査の異常値)，電解質異常，炎症反応
症候編

研修医用の「主要症候」の項目に沿って、項目を増加させることとした。項目をすべてピックアップする必要もないので、適宜まとめて項目設定することとした。項目の選択理由については、前書きにきちんと記載することが好ましい。

ショック，けいれん，咳・痰・血痰，全身倦怠感，肥満・やせ，胸腹水，頭痛，下痢・便秘，などとする。リンパ節腫脹は疾患編から症候編に移動。運動麻痺・筋力低下はけいれんとまとめる。食欲不振はやせとまとめる。尿量・排尿の異常は多尿・頻尿とまとめる。異常呼吸に呼吸困難，息切れをまとめる。など
疾患編

15は「肝機能異常」「ウイルス検査の異常」，16は「腹痛」「黄疸」などの検査編でまとめられる。17・18はひとつにまとめられる。19の多発性関節炎は症候編の関節痛でまとめるので削除。35の「リン

パ腫」を「リンパ節腫脹」という名称に変更し症候編に。

(敬称略)

検査編

以下、3項目を増やすことにした。

「特定健診の検査の見方進め方」

メタボ検診だけを特に取り上げるのではなく、特定健診とする。

「感染症検査の進め方」

検体採取の方法、検体の保存方法、検査レポートの読み方、術前検査のデータの取り扱いなど。

「遺伝子検査の見方、適応」

感染症を除く項目が対象。インフォームドコンセントなどを織り込んだ話題で。

(3) 執筆要綱について

用語の統一をしっかりと行う。臨床検査医学会の検査コードを基準にする。用語委員会なるものが当学会内にあるので、高橋担当理事に確認しながら、用語に注意して、編集する。

症候編においては、7. 治療による副作用チェックのための検査 8. 治療後に必要な検査 を省く。確定診断するまでが重要で、実際治療の方法によってこれらの内容は細分化されるし、書きづらい。

(4) その他

A4版で字を大きく。

表紙はカラフルに。

従来通り差読者は2名。謝金は再度検討。

2008年度中の発行を目標とする。

項目は、会議でまとめたものを委員に配布し、メーリングリストで意見をフィードバックしてもらおう。

執筆者の選定は、各委員からの推薦者を事務局でまとめ、メーリングリストで意見をフィードバックしてもらおう。

次回開催日 当面、メールベースで意見交換する。

I. 検査項目コード委員会(玉井誠一 担当理事)

平成20年度第1回検査項目コード委員会議事録

日時：平成20年4月4日(金)16:00~17:10

場所：日本臨床検査医学会事務局

(第102回 項目コード統一検討会同時開催)

出席者：村田 満, 山田俊幸, 佐藤尚武,

石黒厚至, 井上 勉, 川真田文章,

塩田晃三, 山田悦司, 岩崎真司

(議題1, 2, 出席者) 畠沢, 松尾, 岡田

議題

委員会の冒頭、村田委員長より当検査項目コード委員会の委員長着任の挨拶があった。

1. 日本臨床検査医学会 理事会審議事項について
JAHIS(保険医療福祉情報システム工業会), MEDIS(財団法人医療情報システム開発センター), および、厚生労働省から要望をいただいていた下記2点に関して、検査項目コード委員会から日本臨床検査医学会理事会に提起し、審議・承認されたことが山田(悦)委員より報告された。

(1) 臨床検査項目分類コード(JLAC10)のユーザー領域設定について(1/19 理事会)

(2) 標準検査名称の使用許諾について

(3/29 理事会)

2. MEDIS 標準臨床検査マスターについて

JAHIS, および、MEDIS より、下記の報告および要望があった。

(1) MEDIS 臨床検査マスターの更新および臨床

検査マスター更新プロジェクトの活動報告

MEDIS ホームページの「臨床検査マスター」ファイルについて、議題1, の内容も含めた下記内容を盛り込んだファイルに4月4日、更新する旨の報告がなされた。

- ・ユーザーコード領域の確保

- ・標準検査名称の採用

- ・JLAC10 コードの拡張(15桁→17桁)

- ・単位の追加

- ・JLAC10 要素コード表の取り込み

- ・ユーザー利用ツールの開発

また、これまでの臨床検査マスター更新プロジェクトの活動報告がなされた。

(2) 臨床検査マスター更新プロジェクトからの要望事項

今回臨床検査マスターに採用した「標準検査名称」で規定文字数を超過している項目の適正化および、JAHIS の検査 IT 略称名のレビューを、日本臨床検査医学会(検査項目コード委員会)にお願いしたい旨の要望があった。これを受け、当委員会の検査センターメンバーにて対応することが確認された。

3. JLAC10 コード新規登録申請について(特定健診関連追加)

厚生労働省から依頼を受けた特定健診項目の

日本臨床検査医学会ニュース

JLAC10 コード採番については、当委員会にて検討・設定を実施し、昨年(平成 19 年)11 月 23 日の当委員会にて承認を得た。しかしその後の本年 1 月に厚生労働省から項目追加があり、今回の申請となった。

分析物 11 コード、識別 2 コードの新設申請であり、協議の結果決裁された。

新分析物コード	新分析物名
・9A753	血圧(収縮期 1 回目と 2 回目の平均)
・9A763	血圧(拡張期 1 回目と 2 回目の平均)
・9N095	聴診, 打診その他の検査(結核)
・9N097	病名(結核)
・9N099	備考(結核)
・9N651	胃の疾病及び異常
・9N656	その他の疾病及び異常
・9N661	指導区分(生活規制の面)
・9N671	事後措置(生活規制の面)
・9N676	事後措置(医療の面)

新識別コード	新識別名
・1664	DAVIS 分類
・1615	実施年月日

平成 20 年度第 2 回検査項目コード委員会議事録

日時：平成 20 年 7 月 30 日(水)16:00~17:20

場所：日本臨床検査医学会事務局

(第 103 回 項目コード統一検討会同時開催)

出席者：村田 満, 山田俊幸, 佐藤尚武,
井上 勉, 塩田晃三, 山田 悦司,
板橋光春, 岩崎真司 (敬称略)

議題

1. JLAC10 コード(臨床検査項目分類コード)新規登録申請および変更申請について

(1)新規保点収載項目およびアレルギーの新規登録
平成 20 年 4 月~7 月までの新規保点収載項目の分析物 6 コード, およびアレルギーの識別 3 コード(試薬メーカー要望)の新規登録が申請され, 協議の結果決裁された。

新設分析物名称	新設分析物コード
・マイクロバブルテスト	3F260
・凝固因子インヒビター定性	2B475
・グルタミン受容体自己抗体	5G820
・ポリコナゾール	3M698

・MDA-LDL	3F087
・ヒト TARC	5J228
新設識別名称	新設識別コード
・ピキア精製酵母成分	2780
・ピキア粗抽出物	2781
・ピキア培養上清	2782

なお, 20 年 4 月保点収載の「抗悪性腫瘍剤感受性検査」と 6 月保点収載の「涙液中総 IgE 定性」の分析物コードは, それぞれ既存で登録済コードの「7Z100: 抗悪性腫瘍剤感受性試験(CD-DST 法)」, 「7Z101: 抗悪性腫瘍剤感受性試験(HDRA 法)」および「5A090: IgE」(材料コードは「066」)が適用することが確認された。

また, 同時に申請された「JSCC 標準化対応法」の測定法コード新設(医療施設要望)に関しては, 既存登録済の測定法コード「271: 可視吸光度法」「272: 紫外吸光度法」と内容が重複することから JLAC10 コードの運用上好ましくない, との意見が出され, 再考することとなった。

(2)HCV 抗体関連の識別コードの新規登録および内容(名称)変更

HCV 抗体関連の識別コードにおいて, 現状の市販試薬内容に即した体系への整備案(新設 3 コード, 名称変更 4 コード)が申請され, 協議の結果決裁された。

新設識別名称	新設識別コード
・HC-43/C100-3/C200 抗体 [HCV 抗体 2nd, Abbott]	1484
・C25/NS5 抗体 [HCV 抗体 3rd]	1485
・C/NS3/NS4/NS5 抗体 [HCV 抗体 3rd]	1487
変更後識別名称(識別コード)	
・HC-43/C100-3 抗体 [HCV 抗体 2nd, Abbott]	(1480)
・C22/C200 抗体 [HCV 抗体 2nd, Ortho]	(1481)
・C50 抗体 [HCV 抗体 3rd, Sysmex]	(1482)
・C22/C200/NS5 抗体 [HCV 抗体 3rd]	(1495)

なお今回の内容(名称)変更に伴い, 次回の日本臨床検査医学会 JLAC10 コードのホームページ更新時に, 内容変更した旨のコメントを記載することが確認された。

(3)その他

前回の当委員会(平成 20 年 4 月 4 日)で決裁され

日本臨床検査医学会ニュース

た、特定検診関連のJLAC10コード新設追加(分析物11コード、識別2コード)の英名案が出され、英名に関して村田先生、山田先生、佐藤先生のご指導をいただくこととなった。

2. MEDIS(医療情報システム開発センター)標準臨床検査マスター整備の進捗状況について

検査項目コード委員会がアドバイザーとして参加しているJAHIS(保険医療福祉情報システム工業会)臨床検査マスターWGにて、JAHISより検査項目コード委員会に依頼のあった作業の実施報告がなされた。

作業内容はMEDIS臨床検査マスターのIT名称付と作業であり、JAHISが作成したたたき台の中で「略語：半角10文字」「報告名称：半角32文字」を超えた名称の見直しを実施した。今後、MEDIS臨床検査マスター(IT名称付と版)および当マスターの適用ガイドライン案の検査医学会承認を得て、公開予定である。

3. 検査項目コード委員会への質問対応報告について

本年4月から7月までに医療施設・メーカーなどから、日本臨床検査医学会検査項目コード委員会に寄せられたJLAC10関連の質問と、その回答が報告された。特定検診関連中心に4ヶ月間に18件の質問があった。

J. 臨床検査室医療評価委員会(米山彰子 担当理事)

- 6月23日の常任理事会にてご了承頂いた方針(後掲の【常任理事会提出資料(抜粋)】参照)に沿って、「臨床検査室医療評価指標計算プログラムの開発」プロジェクト研究班と共同で鋭意作業を進めている。
- 本日までに2施設からデータ公開の同意が得られ、現在入力作業を進めている。

【常任理事会提出資料(抜粋)】

○対応策(案)

- トップページには次の文を明示する。

「本プログラムは、臨床検査室の各種基礎データに基づき、質を評価する指標を算出・図示するための共通基盤として、日本臨床検査医学会が開発を進めています。共通基盤とは、どのデータ項目を指標の計算に用いるか、あるいはどのデータ項目にどの程度の比重を与えるか、そして得られた指標を何の目的に用いるか等は、すべて利用者の判断に委ねる仕様である、という意味です。

現時点では未完成のプロトタイプであり、会員各

位からご評価・ご意見を頂戴するために公開しています。したがって本プログラムについて、本学会は何ら保証を与えるものではありませんので、ご留意のうえ閲覧や利用をお願いいたします。なお試用をご希望の会員施設は、日本臨床検査医学会の事務局までご連絡下さい。」

2. セキュリティ確保のため、公開サーバに加え、厳重にセキュリティを確保した非公開サーバを別途構築し、データ公開の同意が得られた施設のみ前者にデータを入力する。それ以外の非公開施設は、守秘義務の遵守と自施設のデータ入力を条件に、後者を用いて自施設と他の非公開施設のデータを互いに閲覧できる仕様とする。当面は各施設が直接データを入力することはせず、開発チームが入力作業を代行する。

3. 臨床検査専門医審議会(宮澤幸久 審議会委員長)

報告事項

1) 研修施設・指導者認定委員会報告

新規申請1施設について準認定病院2年と認定、再認定申請6施設については5施設が認定病院2年、1施設が認定病院5年と認定、また保留後の申請3施設について1施設が準認定病院2年、2施設が認定病院2年として認定された。

2) 受験・更新資格審査委員会報告

本年度の臨床検査専門医試験新規受験希望者23名について、本委員会で受験資格を審査した結果、全員、有資格者として判定され、また再々受験者2名、再受験者6名であることも合わせて報告された。

3) 臨床検査管理医セミナーの開催予定について

本年度第1回管理医セミナーは、20年5月10日(土)10:30~15:30に学会事務所で開催し23名の受講者の参加があった。第2回管理医セミナーは、名古屋国際会議場で、参加希望者に調査して11月29日(土)に開催可能であれば、11月30日から日程を変更して開催することとなった。

4. 第25回臨床検査専門医試験結果について

(宮澤幸久 審議会委員長)

第25回臨床検査専門医認定試験は、平成20年8月2日(土)筆記試験、3日(日)実技試験が実施され、31名(再受験者6名、再々受験者2名)が受験し、29名が合格、再受験者1名、再々受験者1名と判定され、合格率は93.5%であったことが報告された。

5. 第55回日本臨床検査医学会学術集会報告

(登 勉 会長)

1) 会期と会場

会期：2008年11月27日(木)～30日(日)

(但し、11月27日は各種会議開催)

会場：名古屋国際会議場

2) 内容

特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ，セミナー(モーニング，ランチョン，イブニング)等。

一般演題は口演とポスターとする。

3) 学術集会のテーマ

「進化する臨床検査」～病気の予防・診断から治療選択まで～

4) ホームページ URL

URL：<http://www2.convention.co.jp/jslm55/>

なお、一般演題は386題であり、プログラム(案)について学術集会委員会で協議する予定であることが報告された。

6. 第56回日本臨床検査医学会学術集会報告

(松野一彦 会長)

1) 第56回学術集会

会期：平成21年8月26日(水)～29日(土)

会場：札幌コンベンションセンター

(札幌市白石区東札幌6条1丁目)

テーマ：「拡大する検査の力」

2) 第3回実行委員会幹事会

9月上旬(予定)

3) 演題締切時期について

一般演題受付期間について、前回理事会では平成21年4月1日～5月1日であったが、余裕を持って募集をするため、ある程度前倒しして行うことについて報告相談の上、承認された。

7. 第57回日本臨床検査医学会学術集会報告

(宮澤幸久 会長)

会期：平成22年9月9日～12日(2010年)

会場：京王プラザホテル

会長：宮澤幸久(帝京大学医学部臨床病理学 教授)

通常より早い時期の開催ではあるが、第56回学術集会後ほぼ1年間あまるため準備も支障ないものと思われると報告された。

8. 第9回特別例会 例会長の推薦について

(宮澤幸久 理事長)

2011年4月に、東京で、第28回日本医学会総会が開催されるのに合わせて、本会の特別例会を開催する。この特別例会長については、開催地の関東甲信越支部から推薦頂くのが適当であるため、関東甲信越支部(宮地勇人支部長)に推薦依頼がなされた。

9. 微量採血器具の使い回しの対応について

(宮澤幸久 理事長，米山彰子 理事)

マスコミ報道もあった微量採血のための穿刺器具の使い回しの問題で、この件については、2006年にすでに当学会誌、メールニュースで周知していたが、本年度厚生労働省からの事務連絡があったため、6月にあらためて評議員に周知のためのメールを送付したことが報告された。

10. 医療の質・安全学会 医療安全全国共同行動への参加について

(宮澤幸久 理事長，米山彰子 理事)

5月17日に経団連ホールで、医療の質・安全学会が主体となり医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラムが開催された。本会も日本医学会分科会の一学会として、特に院内感染など本会として参加できる領域について参加していく予定である。

11. 第28回日本医学会総会からのアンケートについて(宮澤幸久 理事長，米山彰子 理事)

第28回日本医学会総会からプログラム立案にあたり、総合的なプログラム編成のため、各領域へのアンケート依頼があり、本会としては、テーマ別プログラムとして「予防医学に寄与する臨床検査」という題名でシンポジウムを行う案を提出したことが報告された。

12. 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」説明会報告(5/11)(石 和久 理事)

診療行為に関連した死亡の原因を専門家が調査(解剖を含む)し、同様の事例が再発しないための対策を検討するものであり、厚労省の補助事業として日本内科学会が実施しており、本会も全国から解剖立会臨床医と臨床評価医を学会登録医として派遣し本事業に協力をしている。本会で登録していない地

日本臨床検査医学会ニュース

域について、登録医の確認を行うこととなった。

送り延期されることとなったことが報告された。

13. 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業の推薦について(岡山地域、宮城地域)(宮澤幸久 理事長)

本事業での本会からの岡山地域と宮城地域の、地域責任者1名、臨床立会医5名、臨床評価医5名の推薦依頼があり、各地域の該当支部より推薦して頂いた上で推薦を行ったことが報告された。

14. JCCLS ISOTC212 国内検討委員会委員、認証委員会委員の推薦について(宮澤幸久 理事長)

標記推薦依頼があり、団体委員として宮澤幸久理事長、WG1(臨床検査室における品質(質)と能力)として渡邊卓先生、WG2(基準システム)として佐藤尚武先生、WG3(体外診断用製品)として米山彰子先生、WG4(抗菌薬感受性検査)として福地邦彦先生、松本哲也先生を推薦したことが報告された。

15. (財)医療関連サービス振興会振興会衛生検査項目所業務「チェックリスト改定」に係るWG委員の推薦について(宮澤幸久 理事長)

標記推薦依頼があり、ゞ谷直人先生を推薦したことが報告された。

16. 大学評価・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会 専門委員について(宮澤幸久 理事長)

平成19年6月に推薦したことについて機構から回答があり、高橋伯夫先生、登勉先生が専門委員として選出された旨報告された。

17. 臨床病理誌制作費の値上げについて(玉井誠一 理事)

機関誌制作費について、原油高等での紙代高騰のため、宇宙堂八木書店から約10%程度の値上げの依頼があり承諾したことが報告された。なお、臨床病理1頁につき、10080円から11025円に値上げとなる。

18. 第10回 ASCPaLM(モンゴル)開催延期について(高橋伯夫 副理事長)

平成20年9月10~11日にモンゴル、ウランバートルで開催予定だったが、モンゴルで不正選挙での暴動が起り治安悪化したため、本年度の開催は見

19. 第25回 WASPaLM 大会について(高橋伯夫 副理事長)

2009年3月13日(金)~15日(日)、オーストラリアのシドニーに於いて開催予定(Royal College of Pathologists of Australasia と合同開催)、また第26回 WASPaLM 大会は2011年秋にアメリカで開催予定であることが報告された。

20. その他 特になし。

【審議事項】

1. 平成20年度学会賞の選考結果、提案事項について(宮澤幸久 理事長、矢富裕 担当理事)

1)平成20年度、学術賞1件(田部陽子氏:順天堂大)、生命科学賞1件(東田修二氏:東京医科歯科大・院)、優秀賞1件(山内一由氏:信州大病院)、奨励賞2件(久保田聖子氏:信州大病院、盛合亮介氏:札幌医大病院)、優秀論文賞3件(引野利明氏:群馬大、宮城博幸氏:杏林大病院、渡嘉敷良乃氏:琉球大病院)の候補者が委員会で選出されたことについて承認された。

2)委員会と常任理事会で検討の上、現在ある功労賞をなくして、Bergmeyer-Kawai 賞を功労賞の意味合いを持つ賞とすることについて協議の上承認された。その上で本年度は菅野剛史氏(浜松医大名誉教授)を受賞者とすることについて承認された。

なお、賞の意味合い、名称については、河合忠先生、ロシュ社と相談の上ご承諾頂く予定である。

3)各賞(生命科学賞、優秀賞)の副賞について50万円から30万円にすること、奨励賞を5万円から10万円にすること、なお、各賞(生命科学賞、優秀賞)の副賞の減額された分は、奨励賞の副賞とすることが提案され、協議の上承認された。なお、本件については、宮澤理事長から、基金を協力頂いている各社へ申し入れて了承を得られているとのことである。

4)優秀論文賞の英文名称(案)について「Outstanding Article Award」が提示され承認された。

2. 一般社団法人移行に伴う定款改定案について(宮澤幸久 理事長、米山彰子 理事、酒井富雄

顧問)

本年 12 月 1 日より一般社団法人に移行するため、定款の見直しを行い改訂案が作成された。本案について協議された。

1)現在の評議員会を社員総会とし、現在の総会は報告会となることについて、評議員会を社員総会にすることは定款のモデル案からも妥当となった。収支決算報告承認は社員総会であるため会期の変更(1-12月を9-8月などに)をすることがどうかについては、種々の影響が出てくることが予想されるため、変更せず様子を見ていくこととなった。

2)21条2「総社員数の10分の1以上の議決権を持つ社員は、招集の理由を示して、理事長に対し社員総会の招集を請求できる。」について、言い回しを再考すること、31条3理事長、副理事長の重任の記載が29条の理事の任期と整合性がないので、31条4に「第29条の規定にかかわらず」というような記載を入れること等ご意見があり、再度委員会に検討依頼をすることになった。

3)2)について本委員会で検討後、持ち回り理事会で仮承認を得た上で、細則の見直しと支部規則の雛形を検討して、最終的に第4回理事会(11/8)で定款、細則について審議予定となった。

3. 定款細則改定アドホック委員会委員について

(宮澤幸久 理事長)

本委員会で定款、細則等を検討するときに、適切な助言を頂くため、弁護士顧問の古川俊治先生にアドバイザーとなって頂くことについて承認された。

4. 「医療安全委員会」設置について(宮澤幸久 理事長、米山彰子 理事)

本会として臨床検査にかかわる医療安全の推進を図り、また、医療安全全国共同行動への対応もするため「医療安全委員会」を設置すること、委員会(案)が提案された。委員として「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」の本会統括責任者の石和久先生を委員として追加すること、また、各支部からも1名ずつ、委員が参加することが望ましいとなり、現時点の委員の所属支部を調べ、委員不在の北海道支部、東海・北陸支部、九州支部より1名ずつ本委員会委員をご推薦いただくこととなった。

5. 北海道支部支部長の交代について

(宮澤幸久 理事長)

伊藤喜久先生が北海道支部長を退任され、松野一彦先生に交代することが報告されたが、最終的には9月20日の北海道支部総会で承認を得てからの手続となる。

6. 第54回学術集会決算収支報告(高橋伯夫 会長)

第54回学術集会(2007年11月22~25日に開催)は連合大会であったため、本会のみと連合大会のそれぞれの収支決算報告(両監事が監査済)が提示された。収入、支出の按分などについても説明があり、承認された。

7. 編集委員会投稿規定の一部改定について

(矢富 裕 理事)

下記改訂事項が提示され、承認された。

①表記を1段組とする。

②Corresponding author(連絡著者)を明記する。

③区分「短報」は意義が不明であり、不必要。

④原稿枚数の表示を文字数、ワード数表示に変更する。

⑤区分「原著」についての規定枚数「5頁」を「6頁」に変更する。

⑥執筆要領で400字詰めを廃止する。

⑦文献の著者名の記載を3名までとし、4名以上の場合にその他とする。

8. 会員証発行について(高橋伯夫 副理事長)

当初 IC カードを考えていたが、それより安価で便利である QR コードを利用し、それを会員カードに印刷して発行する方法とし、各支部にカードリーダーを1台配置して、支部会等でも使用すること、また、経費についても説明があり承認された。なお、本年度の学術集会から参加登録を行う予定である。

9. その他(米山彰子 理事)

次回理事会(平成20年度 第4回)日程は、11月8日(土)正午から行う報告があった。

閉会の挨拶

最後に高橋伯夫 副理事長より、平成20年度第3回理事会閉会の挨拶がなされた。